

I 近代日本の課題

1 【開国】

開国という意味には、自己を外つまり国際社会に開くと
際社会にたいして自己を国Ⅱ統一国家として画するという
内包されている。その両面の課題に直面したのがアジアの
域に共通する運命であった。そうして、この運命に圧倒さ
れを自主的にきりひらいたのは、十九世紀においては日本
だった。

(岩波新書 丸山真男『日本の思想』)

2 【文明開化】

文明とは、人の身を安楽にして心を高尚にするを云ふな
饒(ゆたか)にして人品を貴くするを云ふなり。

(福沢諭吉『文明論之概略』1877年)



黒船来航風俗絵巻(場面14) 作者不明

所蔵：埼玉県 歴史と民族の博物館

出典：http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/index.php?page_id=168

II 森鷗外の描いた女性像

3 【外国の体験】

自分はこの自然科学を育てる雰囲気のある、便利な国を跡に
見て、夢の故郷へ旅立った。それは勿論立たなくてはならな
ったのではあるが、立たなくてはならないといふ義務の為に
立ったのでは無い。自分の願望の秤も、一方の皿に便利な国を
載せて、一方の皿に夢の故郷を載せたとき、便利の皿を吊った
緒をそとと引く、白い、優しい手があったにも拘らず、慥かに
夢の方へ傾いたのである。

(森鷗外『妄想』1911年)



出典：Wikimedia Commons

4 【女性との再会】

渡辺参事官は歌舞伎座の前で電車を降りた。(中略) まだ幌を掛けた儘の人力車が一台跡から駆け抜けて行
った。果して精養軒ホテルと横に書いた、割に小さい看板が見附かった。(中略) 廊下に足音と話し声とがす
る。戸が開く。渡辺の待っていた人が来たのである。麦藁の大きいアンヌマリイ帽に、珠数飾りをしたのを被
っている。(中略) 渡辺は無意識に微笑を装ってソファから起きあがって、葉巻を灰皿に投げた。(中略)
渡辺は真面目にその手をしっかりと握った。手は冷たい。そしてその冷たい手が離れずにいて、暈のできたため
に一倍大きくなったような目が、じっと渡辺の顔に注がれた。

「キスをしてあげてもよくって」渡辺はわざとらしく顔をしかめた。「ここは日本だ」叩かずに戸をあけて、
給仕が出て来た。「お食事が宜しゅうございます」「ここは日本だ」と繰り返しながら渡辺は立って、女を食
卓のある室へ案内した。ちょうど電燈がぱっとついた。(中略) 女が突然「あなた少しも妬んでは下さらな
いのね」と言った。(中略)

女は笑談のように言おうと心に思ったのが、はからずも真面目に声に出たので、口惜しいような心持がした。渡辺は座ったままに、シャンパニエの杯を盛花より高くあげて、はっきりした声でいった。“Kosinski soll leben!”

凝り固まったような微笑を顔に見せて、黙ってシャンパニエの杯をあげた女の手は、人には知れぬほど顫っていた。

まだ八時半頃であった。燈火の海のような銀座通りを横切って、ヴェエルに深く面を包んだ女をのせた、一輛の寂しい車が芝の方へ駆けて行った。

（森鷗外『普請中』1910年）

5 【新しい女性】

元始、女性は大に太陽であつた。真正の人であつた。今、女性は大である。他に依つて生き、他の光によつて輝く病人のやうな蒼白い顔の月である。私共は隠されて仕舞つた我が太陽を今や取戻さねばならぬ。

（平塚らいてう『元始女性は大太陽であつた。——「青鞥」発行に際して——』1911年）



出典：Wikimedia Commons

6 【古くて新しい女性】

お佐代さんは夫に仕えて労苦を辞せなかつた。そしてその報酬には何物をも要求しなかつた。ただに服飾の粗に甘んじたばかりではない。立派な第宅にいたいとも言わず、結構な調度を使いたいとも言わず、うまい物を食べたがりも、面白い物を見たがりもしなかつた。お佐代さんが奢侈を解せぬほど愚かであつたとは、誰も信ずることが出来ない。また物質的にも、精神的にも、何物をも希求せぬほど恬澹であつたとは、誰も信ずることが出来ない。お佐代さんにはたしかに尋常でない望みがあつて、その望みの前には一切の物が塵芥のごとく卑しくなつていたのであらう。（中略）お佐代さんは必ずや未来に何物を渴望んでいたらう。そして瞑目するまで、美しい目の視線は遠い、遠い所に注がれていて、あるいは自分の死を不幸だと感ずる余裕をも有せなかつたのではあるまいか。その望みの対象をば、あるいは何物ともしかと弁識していなかつたのではあるまいか。

（森鷗外『安井夫人』1914年）

III 与謝野晶子という女性

7 【歌の表現】



出典：Wikimedia Commons

やわ肌のあつき血汐にふれも見でさびしからずや道を説く君
人の子の恋をもとむる唇に毒ある蜜をわれぬらむ願ひ

（与謝野晶子『みだれ髪』1901年）

ああをとうとよ、君を泣く、君死にたまふことなかれ、末に生
れし君なれば 親のなさはまさりしも、
親は刃をにぎらせて 人を殺せとをしへしや、人を殺して死ぬ
よとて 二十四までをそだてしや。

（与謝野晶子『君死にたまふことなかれ』（旅順口包围軍の中に在る弟を歎きて）1904年）

8 【活力の発現】

事実の大局から云えば、活力を吾好むところに消費するというこの工夫精神は、二六時中休みつこなく働いて、休みつこなく発展しています。元々社会があればこそ義務的の行動を余儀なくされる人間も、放り出しておけばどこまでも自我本位に立脚するのは当然だから、自分の好いた刺戟に精神なり身体なりを消費しようとするのは致し方もない仕儀である。もっとも好いた刺戟に反応して、自由に活力を消耗すると云ったって何も悪い事をするとは限らない。道楽だって女を相手にするばかりが道楽じゃない。好きな真似をするとは、開化の許す限りのあらゆる方面に亘つての話であります。自分が画がかきたいと思えば、できるだけ画ばかりかこつとする。本が読みたければ差支ない以上、本ばかり読もうとする。



出典：Wikimedia Commons

（夏目漱石『現代日本の開化』1911年）

9 【趣味と信仰】

私はさきに、「太陽」誌上で、私の貞操は道德でない、私の貞操は趣味である、信仰である、潔癖であると言う意味のことを述べました。趣味や信仰や潔癖は他に強要すべき性質のものでありません。そうして私が私の貞操を絶対に愛重して居るのは芸術の美を愛し学問の真を愛するように道德以上の高く美しく或物——仮に趣味とも信仰とも名づくべきものだと思つて居ます。

（与謝野晶子『貞操は道德以上に尊貴である』1915年）

10 【日本女性の特質】

それなら何が日本婦人の長所かと云うと、第一には手先の技術の器用であることでしょう。一体に裁縫とか刺繍とかは欧米婦人の短所であつて、其代りに精巧な器械の發明が彼等の国には幾様にも進んで居りますが、日本には機械力の乏しい反対に婦人の手工の能力が非常に発達して居ります。（中略）裁縫や刺繍類ばかりでなく、歯医者、タイピスト、婦人理髪師、産婆、帽子製造人と云う風な職業には日本婦人が歐洲の婦人よりも卓越した能力を持つて居ることを私は信じます。

次には清潔を愛することでしょう。歐洲人は表面こそ清潔なようですが、実際は我々日本人から見ても堪えられないような不潔なことも案外平気で居る習慣があります。（中略）日本の女の長湯は有名であり、其他の事に就ても日本人の男も女も世界で唯一の潔癖な国民であることは大に自負して好いと思います。

次には妻となつた婦人の貞操の堅固なことが日本婦人の特色中の特色だと思ひます。（中略）また一つには日本婦人の脆弱な體質の關係から自然に守られる貞操でもあるでしょう。その動機はこの後変化するでしょうが、兎に角これは永遠に維持されて行く美風であらうと思ひます。

第三には、日本婦人の多産を特色として挙げたいと思ひます。脆弱な體質の割に出産率の多いことは全く世界に誇つて好いでしょう。（中略）唯だ我々婦人は自分達の生む多数の子孫を出来るだけ人道的に教育して、現に行われつつあるような戦争の禍因を将来に再び作ることに無い聡明優良な人類にまで進化させることに努力せねばなりません。

第四には、日本婦人の容姿の美です。體質の脆弱は今日既に識者の間に氣の附いて居ることであつて、それがために調査機関までも出来たようですからそれは漸次に強健な體質に充實させることが出来るであらうと信じます。（中略）

そのうえ、日本婦人の美はまだ大部分が洗練されずに居ります。二三代を経て洗練したなら更に仏蘭西婦人に匹敵するだけの素質が潜在して居るとさえ私には予想されるのです。

最後に、私の最も期待して居る所の特色で、しかも唯今はまだXであるものがあります。（中略）それは二千五百年来の日本文明を基礎とした上に明治以来断えず取入れて居る世界の近代文明が久しく眠って居た日本婦人の生活意志を刺戟して、現在の程度にまで新しい擾乱を惹き起させ、個性の自尊と培養と活動とを我々婦人に復興させて呉れました。この不思議の一陽来復が遽かにまた中断して開花の季節を促さずに止まうとは考えられません。屹度、屹度、英国婦人の其れに異り、米国婦人の其れに異り、仏蘭西婦人の其れに異って、日本人種の特徴を備えた、何等かの精神的婦人文明が近き二三十年の後に起って、世界人類の光栄に貢献するに到るであろうと期待される、その未来の日本婦人の特色を挙げたいのです。

（与謝野晶子『日本婦人の特色は何か』1917年）